



県人会創立50周年について

会長 千田曠暁

皆様には、新年の慌ただしさ、喧騒のカーニバルも過ぎ、生活も平常に戻り益々ご活躍の事と存じます。

さて、日本移民100周年を記念する諸行事も既に始まり、各報道機関、団体、或いはブラジル中の世相でも機運が高まりつつあります。

我が岩手県人会は創立50周年祭を実行すべく諸準備を急いでおります。母県に於いては賛助会員の会主催で祝典ツアー参加者を募集中。県でも慶祝への諸準備を急いでおります。

また、会員皆様には50周年特別募金のお願いに對し母国をはじめ、多くの方々から協力が寄せられております。皆様方のご厚志に心から深い感謝とお礼を申し上げます。

皆様のご協力は、会報に記し「ガラス張り」で募金状況を報告させて頂いており、お振込（分割も含め）は銀行の通知を待って領収証（入金日を記載）を発行し、皆様に送付させて頂いております。

県人会では諸準備事項にそって、一つ一つ審議進行して参りたいと思います。既に、駐伯第三代杉村公使墓碑整備について「碑」の形は出来上がり、文字刻みの段階も近く4月下旬には完成予定。台座部分は墓地管理局の制約により変更しなければならず、近くりオの管理局を訪れ具体的に設計を見直したいと思います。



定期総会・新年会（2008）



新年会風景

1月20日（日）県人会の第49期定期総会・新年会が開催された。

多田副会長の司会で開会、開拓先亡者への黙祷、千田会長の開会の挨拶があり、議長に多田副会長を選出。議長は書記、議事録署名者を指名し議題を進行した。

初めに、藤沢裕書記が07年度の事業を報告、昆野ワシントン会計が会計報告を行う。大志田寿監査役代表が監査所感を延べ、質疑応答があった。

次いで、会長から08年度事業計画、予算案を提示承認された。理事会提案では会費を据置きし、財政的に難しい会員には払える会費をお願いしたい旨、提案があり承認された。

また、県人会50周年へ、県知事一行や芸能使節、賛助会員の慶祝団、報道陣の来伯も予定。移民100周年特別事業として、杉村公使墓碑整備の進行状況を報告。50周年特別協力を要請した。図書無料貸出の状況も報告され、高橋凡児副会長の閉会の辞で閉会。

新年会は多田副会長の乾杯の音頭で始まり、会員持ち寄り料理や県人会提供の刺身などに舌鼓み、カラオケを交えながら親睦を深めあった。当日は雨の中会員や家族など80名程が参集した。

「子供の作文」 神戸移住教養所に



旧神戸移住センター

JICA横浜国際センター海外移住資料館に、戦前移住者の子弟が書いた「作文集」があった事が分かった。

同センターでは、作文を書かれた方々の貴重な証言映像取材・収集を計画、各県人会に県出身者別に調査依頼があった。

旧神戸移住センター入所者で、岩手県人では、千葉勇太郎、父・喜平次の次男、東磐井郡 昭和7年5月渡伯。安倍儀郎、父儀一の長男、山田町、昭和7年7月渡伯。柴田真吉、父勝三の三男、二戸郡、昭和8年8月渡伯。伊藤ノリ、父庄之助の長女、下閉伊郡宮古、昭和8年8月渡伯。小澤照子、丑松の妻の妹、江差郡愛宕、昭和10年10月渡伯。佐々木キン、忠右衛門の妹、厨川、昭和10年10月渡伯。と、ありますが、県人調書によると住所不明の方が多く、大正生の高齢者。県人調書の結果、安倍さん（元県人会事務局長）は1年以上入院中。佐々木キンさんは会員である佐々木久六さんの妹であった。

（注）県人会から佐々木様（87歳）に問い合わせの結果、一家8名はバストスの佐々木久輔氏の呼び寄せで来伯。キンさんは久六さんの妹で、1941年6月21日病死されたとの報告がありました。妹キンさんの「作文」が残っていたら、コピーを送って下さいと便りがありました。

以上の方々をご存じの方は、県人会までご一報をお願いします。

岩手県人ここにあり



南米横断鉄道マップ

古い記録の中から、かさと丸移民（明治41年・1908年）の前年、盛岡高等農林学校（現・県立大学農学部）出身の「藤田克己」「塩川伊三郎」さんが、アルゼンチンの農業視察の帰り、ついでに立寄ったブラジルで、当時南米大陸横断鉄道の工夫を募集している事を知り、かさと丸移民の脱耕者達（その殆どが沖縄県出身者）を集めて、現地へ乗りこんだという。この横断鉄道は北米の大陸横断鉄道にならって、大西洋岸はサントスから、太平洋岸チリーのアリカ間をアンデス山脈を越えて結ぶと言う、壮大な計画のもとにはじめられた事業で、ブラジル側はサントスからソロカバ、パウルー、カンボ・グランデを通り、ボリビアとの国境の町コロンバまで、ボリビア側は国境からサンタクルスの町まで、そしてチリー側ではアリカからアンデス山脈のラパスまでが開通したが、ボリビア側は経済的な問題等からアンデス超えに至らず頓挫したままで未完成の横断鉄道となっている。

しかし、藤田、塩川両氏が取組んだカンボ・グランデ、コロンバ間にはブラジルで最後の楽園と云われる大湿地帯が広がり、鉄道の敷設は困難を極めたところである。鉄道が開通した後は、両氏ともカンボ・グランデに居を定めたというが、消息は分かっていない。

記 畑 勝喜

お知らせ

会員交流懇親・創立50周年委員会設立

3月16日（日）午前10時より、「県人会創立50周年特別委員会設立」を兼ねた、「第37回会員交流懇親・誕生会」を行います。

懇親会は、普段より1ヶ月早いですが、県人会50周年について会員皆様方のお知恵を拝借しながら、特別委員会に加わって頂

き、式典準備事項などを皆様と共に進めて参りたいと思いますので、ご家族お揃いで参加して頂きたいと存じます。

尚、食事は毎度で申し訳ありませんが持ち寄りをお願い致します。飲み物、刺身、ポーロ等は県人会で用意いたします。

プログラム

午前10時より 50周年特別委員会設立について
12時より 第37回会員交流懇親・誕生会

Dreams Come True
ニューヨーク・大連・サンパウロetc...世界10カ国
二戸の酒米「ぎんおとめ」で造られる
二戸の地酒 南部美人は世界へはばたく。

南部美人を飲むサンパウロの店
●Jun Sakamoto TEL. 3088-6019
●A-1 TEL. 3145-1833

南部美人
株式会社南部美人
岩手県二戸市権町上町13
TEL 0195-23-3133
FAX 0195-23-4713
E-mail: sake@nambu.co.jp
ホームページ毎日更新
http://www.nambu.co.jp
●お酒は20歳になってから

1月7日 県人会業務開始。新年のメールを次の方々から受信。和美宏幸氏、武藤嵩氏、佐々木栄洋氏、及川さおりさん、北柄玲子さん、矢羽々有氏、杉村新氏、杉村延広氏、佐々木健氏、岩船信一氏等から。返信。

8 県交流協会の坂本氏から賛助会費納入。永石修一氏（大阪）から新年の挨拶受信。

9 長野在の高橋勇一郎氏よりお手紙と、カレンダー2編受領。

10 囲碁国際大会参加ツアー一行が来館。前沢出身者2名あり。

12 役員会。議題は定期総会や50周年、その他について

☆ JICAボランティアの箕輪敏泰氏と娘の真弥さんが岩手太鼓雷神と交流。

13 岩手親善大使の報告を県庁へ送信。

18 わんこソバ東家の専務馬場暁彦氏とわんこソバブラジル大会について連絡。

19 木原ケンジさん、毎土曜日本語教室を開設。

20 第49回定期総会・新年会開催。80名ほど出席。

23 会報155号を国内外へ発送。

☆ 高橋由一金ヶ崎町長から、県人会50周年へ参加の予定と親書あり。

28 練習艦隊で来伯した佐々木昌文氏（奥州市出身）より「素敵なメイク雑誌」3冊の送付あり。

31 県連代表者会へ会長出席。

2月1日 留研生会の講習会閉会式に会長出席。

4 吉田恭子さん（盛岡）から、岩手日報で4月から「世界に活躍する県人・その国々の庶民の暮らし」を毎週掲載の企画との知らせ。山中正二氏やリオの黒沢百合子さん（県費留学生）に連絡をとメール受信。

6 県国際交流協会坂本事務次長より、金ヶ崎町の佐藤武氏より式典募金として10万円の委託があった旨の連絡。

8 山中正二ベレン県人会会長来館し懇談。

☆ IBC 岩手放送テレビ編成局製作部の堀米道太郎氏より、県人会50周年・移民100周年に関連し『番組企画』について、問い合わせあり。返信。

12 吉田恭子さんより、南米ツアー参加予定者名受信。

13 河北新報社加賀山仁記者より、ブラジルの東北人特集記事の送付あり。

14 塚田修吾氏（88歳・監査補）は、事故のため13日午後急逝14日午後埋葬。県人会有志葬儀に出席。

18 酒・南部美人の久慈浩介専務より、式典用お酒の提供メール受信。

20 県国際課主事矢羽々氏より、50周年についての諸情報あり。

21 IBC 岩手放送の堀米道太郎氏より、取材対象者について受信。

寄付・寄贈（1月）敬称略

佐々木 憲輔 お茶菓子
読者の皆さん お茶菓子・その他

会費納入者名（1・2月）敬称略

富沢 弘、駒込 健二、小崎 啓子（新・賛助）、山道 慶大、陳 文財（賛助）、畑 勝喜、寒河江 良廣（賛助）、岩船 和子、岩船 孝之 マルセロ、藤村 光夫、千田 曠暁、武田 春雄（賛助）、高橋 慶一、元粕 元、千田 まさ、渡辺 美智子、高山 フジ、千田 輝海、亀ヶ沢 梅吉、伊藤 春野、浅見 マリア、野村 みつこ、加納 ナカ、高橋 凡児、虎岩 アキ子、塚田 修吾、千田 みや子、千葉 キク、田口 ヤス、吉田 よしみ、亀ヶ沢 アメリア、昆野 とし子、藤木 てるこ、高橋 昭二郎、野村 タカ、三枝 たか子（新・盛岡）、崎田 チオカ、崎田 チトセ、平野 マリア、平野 ジョゼ、平野 トミオ、三部 キエ、栃沢 千秋、戸来 キミ、後藤 たえこ、和田 司（賛助）、昆野 昭仁 ワシントン、泉 政秀、及川 秀義、高橋 潔（賛助・2005～2008）、中村 協男（新）、大志田 寿、黒沢 和子、石井 紅夫、阿部 正巳、阿部 高志 アイレス、田鎖 満、多田 孝則 マウロ、多田 登、川村 ネルソン、佐々木 憲輔、佐々木 憲次、千葉 直義、玉木 シモネ、山田 山門 エツコ、太田 良穂（2月22日まで 累計66名）

県人会 50 周年特別協力者名（敬称略）

ご協力ありがとうございます

千田マサ 300、浅見マリア 300、野村ミツコ 300、虎岩アキコ 300、千葉キク 150、田口ヤス 150、高橋昭二郎 300、崎田チオカ 300、千田恵子（特別）200、高山フジ 100、武田つる子 300、栃沢千秋 100、戸来 キミ 300、和田 司（賛助会員）200、河野 ヤエ 300、岩船 和子 50、岩船孝之 マルセロ 50、佐々木健一 50、佐々木久六 60、及川益夫 50、吉田よしみ 50、後藤タエ子 100、加納ナカ 50、小原アヤ 100、野村タカ 300、及川秀義 300、千葉和枝 300、久保ジョルジ 60、桐田正己 50、巖谷毅 50、野村たか 300、唐沢みつこイザウラ 50、藤堂勝次 250、石川百合子ジュリア 50、千葉直義 300、（以上1月）
黒沢和子 200、石井紅夫（賛助）100、千田みや子 300、江口寅彦（特）50、稗貫慶朋（賛助）300、高橋好子 250、内海博 50、岩船和子 50、岩船孝之マルセロ 50、田鎖満 1500、菊地義治 700、佐々木寛一 50、黒澤和子 200、千田みや子 300、佐々木久六 60、久保ジョージ 120、小原 アヤ 200、加納ナカ 50、阿部高志アイレス 300、元粕司 50、多田登 300、久保ジョージ120、後藤妙子 100、及川益夫 50、巖田重夫 400、菊池満 300、藤沢晴巳 300、佐藤 武（金ヶ崎町）10万円、岩船信一（神奈川）1万円（県国際交流協会へ委託）（2月22日まで）

「図書寄贈」

（1月・敬称略）フーチャン 159冊、蓮田 サツキ 9冊、安田 祐規柄 392冊、佐々木昌文（水沢出身・海自員）3冊、矢野 純一 60冊、青蓮山法眼寺 439冊 合計 1062冊

県人会図書利用

1月 225名 945冊



賛助会費納入者名（11・12月敬称略）

岩崎 雄克（NY県人会長、07、08）、渡辺 勉（07）、小関 浩喜（07）、岩船 信一（08）

役員逝去

塚田修吾氏（行年88歳・県人会監査補）は、2月13日事故のため急逝され、14日午後グアルーリオスの墓地に埋葬されました。ご冥福を祈ります。

父娘二人旅

文 畑勝喜・写真 畑カーナ真樹



首里城正殿

『世界遺産

首里城跡』

私が初めて首里城を訪ねたのは、今から17年も前の1990年4月の事。この時は再建工事中で、中を見る事は出来なかったが「守禮門」

付近は観光客目当ての土産品店等が軒を連ね、伝統的衣装を身に纏った琉球美人と共に記念写真に納まる為に、観光客が長い列をつくり賑わっていた。

実際チュラカーギ（沖縄美人）という言葉がある位、目鼻立ちの整った美人が多く、昨年のNHK朝の連ドラ「どんと晴れ」でヒロインを演じた比嘉愛朱さんも、沖縄出身であったのは記憶に新しいところである。

初めて見る首里城は、中国の宮殿を思わせる華麗な建造物で、さすがに14世紀中頃から19世紀末まで続いた琉球王朝の権威を見る思いであった。

首里城正殿では、朱塗りの柱の陰等に王国時代そのままの装束で目立たぬ様に控えているガイド達がいるが、こちらから訊ねれば詳しく説明してくれるが、そうでなければ語りかけてくる事はなく、幽玄で静寂な空間の中で贅を尽くした精巧な細工の芸術品に心を奪われ、王政時代の優雅な世界に誘う巧みな演出がとられている。

首里城はいわゆる戦う為の城とは異なり、国政を司る為に造られたもので、中国や朝鮮等との交易によって繁栄した琉球王国の姿を、今に伝えている。

『珍味海ぶどう』

私は、旅に出た時はガイド・ブック等に紹介されていない様な店で、地元の人達の方言等を聞きながら飲んだり食事をするのが好きだ。この日の夕食は「ちゅらさん亭」という、NHK連ドラと同名の看板につられて沖縄料理屋に入った。内部は右側に5脚のカウンター席。左側に3つのテーブル席、その奥に小さな畳敷きの席という小じんまりとした店で、天井から漁網が垂れ下がり、棚には沖縄の地酒泡盛の壺が並び、ところどころに針千本や鮫の頭の剥製が牙をむいている・・・というレイアウト。

娘は北九州光園寺の井上住職に教わった「泡盛は安いのを飲んではいかん。古酒を選んでゆっくりと味わうのが通の飲み方だ」という言葉を忠実に守って、この店最高級の古酒を注文。私は沖縄ではこれと決めている地ビール・オリオンをオーダーする。沖縄の気候風土にマッチしているビールである。ところが、このビールを東京で飲んでもあまり美味しく感じられないのは、ブラジルでもアマゾン地方で生産されているセルパ・ビールをサンパウロで飲んでも、アマゾンで飲んだ時のうまさを感じられないのと同様、何と云っても地元で飲むビールの味が最高である。

やがて、テーブルにゴーヤチャンプルー、琉球名物の黒豚アブーや、見た事もない様な沖縄料理は運ばれてくる。食材を訊ねるとTV番組「ちゅらさん」の中の沖縄料理店「ゆがふ」の主そっくりのこの店の主人が、一つひとつ丁寧に教えてくれる。中でも気に入ったのは「海ぶどう」。それは丁度クリスマスに飾るモールのと

ころどころにブドーの実をつけ、それをグーっと縮めた様な海草で、そのプチプチとした独特の食感がたまらない。沖縄を旅したら一度はご賞味あれ。

『観光バスの旅』

私のこれまでの沖縄訪問は、いずれも映像取材の為に、依頼者が用意した車で移動に次ぐ移動というハード・スケジュールの為に、ゆっくり観光する時間はなかった。今回の沖縄訪問は全くのプライベートなもの。そこで、この日は観光バスで島を巡る事にしたのである。

30名程の観光客を乗せたバスは、東シナ海ぞいに走る国道58号線を北上。やがて右側にフェンス（金網）が続き、教会や学校、大きな病院等が、豊かな緑の中に点在する風景は平和そのものだ。「はるか奥の方に見えて参りました巨大な建物。これは敵から核攻撃された時のシェルターになっているそうです」バス・ガイド嬢の案内である。そう、この長大なフェンスの中が移転問題で注目されている米軍嘉手納基地で、面積は4000ヘクタールもあるという。観光バスは最初の下車ポイント「道の駅かでな」に到着。屋上の展望台からは基地の滑走路の動きが手に取る様に分かる。2機の戦闘機が耳をつんざく轟音を残して飛び立って行くと、間もなく巨大な輸送機が降りて来る。ガイドさんの声も爆音で良く聞こえない。沖縄が日米両国にとって戦略的に最前線にある事を体感した。

『琉球村』

次いで訪れたのは琉球村。入口で大きなシーサー（沖縄の伝統的な守り神）に迎えられて村内に入ると、そこは琉球一色の世界。お祭り広場では勇壮な太鼓の響きと共に、沖縄の盆踊りエイサーが踊られており、中には頭上に泡盛の瓶を乗せて踊っている元気なオバーも居て、私はパラグアイの民族舞踊「ビンの舞」を思い出していた。いつの間にかエイサーは観光客をも巻き込んで大きな渦となっており、娘もその中で陽気に踊っていた。この他、サーターヤーと呼ばれる昔ながらに水牛を使った製糖風景や、沖縄の毒蛇ハブとマングースの死闘を見物する施設もあるが、何と云っても観光客にとって嬉しいのは島内各地から移築した古い民家群の軒先で紅型や織物などが体験出来る事である。娘も小さなシーサーにノイボ（婚約者）と連名で名前を彫って悦にいていた。古い瓦の上に鎮座している個性豊かなシーサーの姿と、美しく咲き誇るブーゲンビリアの花。琉球村はまるで王朝時代へタイムスリップした様な場所であった。



シーサーと較べてもヒケを取らない筆者のおなか

つづく

IMPRESSO



盛岡市は岩手県の中央部に位置し、県庁所在地で人口30万人の
中核都市で、新幹線で東京、盛岡間は最速で2時間18分である。
市内は緑が多く静かな町で、北上川から見ると岩手山は絶景。秋
には北上川や中津川に鮮も上がってくると云う。昨年はNHK連
続ドラマ「どんと晴れ」で盛岡を中心にドラマが展開されたこと
で、一躍有名になった地である。
主な観光は、南部城跡の岩手公園、つなぎ温泉郷、一本松で有
名な小岩井の農場、石割桜、祭りではチャチャマコ、さんさ
踊りが有名。食はわんこそば、しそメン、シヤンパ麵などがある。
歴史的人物も多く新渡部稲造、原敬、宮沢賢治、金田一京助、米
内光政など輩出している。

(www.city.morioka.iwate.jp より)

盛岡市
もりおかし



Associação Cultural e Assistencial Iwate Kenjinkai do Brasil

ブラジル岩手県人会

RUA THOMAZ GONZAGA, 95-M - CEP 01506-020 - LIBERDADE - SÃO PAULO - BRASIL

TEL/FAX (11) 3207-2383

www.iwate.org.br - e-mail: iwate@iwate.org.br

※ ブラジル岩手県人会ニュース 2008年2月発行 156号